

# 『紡ぐ』

2020.9.1 第10号

発行 教育相談室「あした塾」



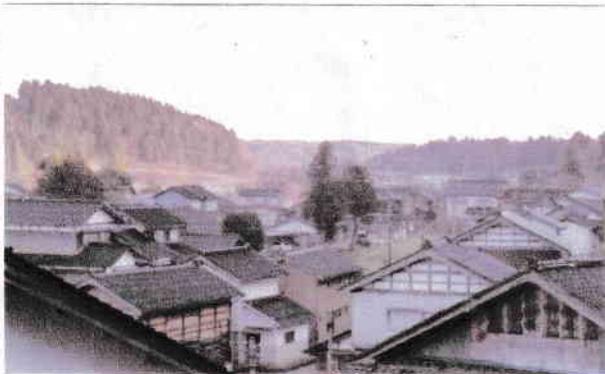
広報あなみず ⑧

# 穴水町 忘れられた過ち

広報あなみず8月号の表紙は「衝撃的」でした。廃屋の写真。そして、夏、赤松「穴水町」の文字。記事は穴水町の空き家の現状と「空き家バンク制度」「空き家改修費等補助金」「危険空き家除去補助制度」などの空き家対策についての現状、穴水町の置かれている現状をあらわに考えさせられた内容でした。

穴水町の人口は8月現在、7,723人とあります。(北国新聞)総務省の資料によると、2000年時、穴水町の人口は11,267人で、2020年には7,801人と推定されています。実際には、約80人多く減少しています。20年で、実に3,500人余り減少しています。これを、何の対応もしなければ、近い将来、穴水町は「空き家」だらけの「空き町」になってしまいます。

「しんぶん『紡ぐ』」は、第1号で、「穴水町の厳しい現実を受け止め、行政の議会も、そして町民も『穴水町で住みよく、生き生きとした町として存在し続けるために、何が必要か、どんな取り組みが考えられるか』。それぞれの立場で知恵を出し合い、それを形にしていく工夫、努力が求められます。」と「しんぶん『紡ぐ』」発行の主旨に合わせ発信しています。



(資料写真)

今一度、多くの人で、いろいろな知恵を出そうと求めたいと思います。

## 街中の御意見者

苦言です

前号でお知らせした「議員報酬削減」の議案採決に関して、「存

心、全会一致にこそ求めよう。情けない。」の声

が。もちろん、コロナ禍で、県内のいくつかの中学校が、一学期一度の修学旅行を中止している中、

「議員の視察研修旅行の費は出さるちのち。何、考えとらん！」

という声も。こんな話で聞くと、議員の皆さんには見識を發揮してもらいたい。穴水町議会の視察研修、年に2回あります。議員全員対象と議員(5人)対象。いずれも2泊3日。自費の他税金を使います。さて、9月議会が始まります。見る活劇を!!



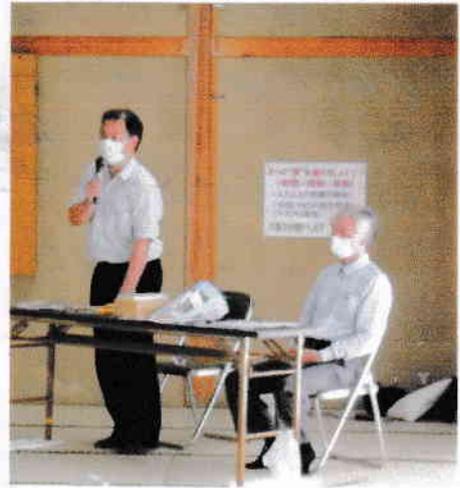
(議員の皆さんの投稿をお願ひします。)

(絶滅危惧種の鹿の子ユリ)

# 新中居八景の創造も

令和2年8月2日

8月2日(日)、住吉公民館で「新中居八景創造会議」の発会式・講演会がありました。「創造会議」は、その目的を「従来の『中居八景』の歴史的文化的価値の上に、新時代に相応しい『新中居八景』の文化的価値を様々なジャンルから、発見・創造し、地域の活性化に寄与する。」としています。



〔不二井相談役(左)と竹野会長(右)〕

「しんぶん『紋ぐ』」は、宍水再発見と題し、「甚左衛門地蔵」や「鎌倉屋敷」「加夫乃比古神社」、そして「御物子船」の話を掲載してきました(今後も掲載予定)が、二水は宍水町の貴重な財産です。宍水所にはないもの、宍水町でしか体験できないこと、宍水町に来ないと食べられないものなどを発見・発掘し、所作りに生かしていくという考えです。



中居新町の西葦寺所蔵の「中居八景」です。(一部)絵に和歌が書いてあります。江戸後期のものか...

「創造会議」の目的、活動は「しんぶん『紋ぐ』」と意思を共有できると思います。大いに協力したいと考えています。町の皆さんのいろいろな力も出していただきたいと思います。(T)

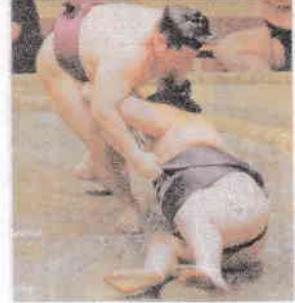
「創造会議」は、不二井博史相談役、竹野博正会長、下出源一、小泉正敏両副会長など、会員は91名です。(8月2日現在)

事務局は住吉公民館です。いろいろな質問の応答は住吉公民館まで、お願いいたします。

## 区切りの10号

「しんぶん『紋ぐ』」は区切りの10号が刊行されました。180部配布のイラスト。現在所内300部余、所外県外10数部です。あわせて約320部です。手紙や電話その他から1000人以上が目に止まると思っています。

## もっと強い遠藤が見たい!



7月10日、両国映画場にて開催された「北陸朝」のイベントで披露された。

7月場所、東前頭筆頭の遠藤は、千秋楽を勝ち越して決まりました。地元ファンはホッとしました。『もっと強い遠藤』が見たい!というの本音です。9月場所、もう一つ、もっと上を目指して活躍を期待し、みんなを応援します。